

国文学研究資料館報

第48号

平成9年3月

国文学研究資料館ホームページ

情報メディア室 丸山 勝 巳

インターネットがブームで、マスコミにもよく取り上げられている。中でもホームページという言葉をよく目や耳にする。当館でも平成七年度よりホームページを開設し、国文研の紹介や一般情報の提供を行うとともに、電子図書館の構築に向けた研究実験も行っている。

ホームページとは、インターネットという計算機通信網につながったパソコンや計算機に対して、文章・静止画像・動画像・音声などのマルチメディア情報を提供したり、利用者の入力した検索条件に合致する資料を検索して、検索結果を表示したりする情報発信源のことである。これはWWW(World-wide-web)と呼ばれる全世界をカバーした通信網であり、お

互いに情報の交流が可能である。

ホームページは、使い方が非常に簡単、画像や音声などのマルチメディア情報が扱える、利用者システムが会話することく対話的に目的の情報をアクセスできる、世界中の情報を直ちにアクセスできるなどの理由で急速に普及した。(急速に普及した物としては、コンパクトディスクとホームページが双璧である。)

先ず使ってみよう。パソコン上でWWW用プログラム(NetscapeやEpsilon)を起動し、以下のアドレスを入力すれば当館のホームページが表示される。

<http://www.nijl.ac.jp/>

後は、表示画面上で下線や色付けされたリンク部分にマウスを持っていてボタンをクリックする

1	国文学研究資料館ホームページ 丸山勝巳
2	新報和古抄
2	外国人研究員
3	新取資料紹介
4	パリで読んだ六百番歌合 松野陽一
4	よみがえろ 菅原小次集
5	第二千回 国際日本文学研究会
5	文庫紹介
6	科研「国際学術研究」を繰って
7	シンポジウム「人文科学でコンピュータ」
8	平成9年度共同研究
8	夏期学院セミナー 巻頭生蔵集
9	論報
11	利用者へのお知らせ
12	平成9年度春季学会

だけで、該当内容が表示される。

当館のホームページでは、以下の内容を提供している。

- (1) 当館紹介 紹介やトピックス等
- (2) 案内 展示案内、閲覧室・史料館の利用案内、研究集会案内等
- (3) 事業紹介 各研究部の紹介
- (4) リンク集 人文系のホームページへのリンク集
- (5) 電子資料館実験 これは次項で述べる。

「電子資料館」実験は、「インターネット(通信網)を経由して、世界中の何処からでもいつでも直ちにアクセスでき、目的の資料や関連する資料を簡単に見つけられ、

翻刻した全文テキストや原本の画像が見られ、簡単に使えるシステム」の構築を目指した実験である。

現在外部に公開している内容の一例を以下に示す。本にすれば数十巻にもなる内容が、瞬時に検索できる。

・二十一代集の本文検索と一部の

原本画像表示

・演能記録データベース

・連歌データベース

・百人一首

・試験用目録データベース類(館外には非公開)

・その他

当館の電子化資料の成果は、CD-ROMなどでも提供する予定なのでパソコン上でも色々な情報が検索できるようにするが、電子資料館の大きな特徴としては、何種類ものデータベースにまたがって膨大なデータ群の中から目的の情報や関連する情報を直ちに検索できることである。

電子資料館の構築には、(1)情報処理技術、(2)内容の構築、(3)著作権など権利問題の三大課題がある。

(1)は純粹に技術的問題であり、情報処理技術の進歩は非常に速く、国文研の中でも少数ながら我々情報系研究者が黙々と仕事を進めている所である。(2)は当館の重要任

務であり、例えば目録データベース構築、本文データベース作成等が進行中である。

一番難しいのは(3)である。古典の場合は、原著者は没後50年を過ぎていてので著作権はきれており、その内容自体(勿論翻刻本文には翻刻者の著作権がある)や原本画像は本来public domainである。しかし、現実には電子化資料にするには色々な垣根があり、我が国は欧米に比べて文化財のデジタル記録化・公開が遅れている。これらは日本の貴重な文化財であり世に伝えるためにも広く公開することが我々の任務であり、積極的に取り組まなければならないと考え。著作権という法律自体も、作者の権利保護と文化の公開の両面を求めている。例えばモーツァルトの未公開楽譜があったとしよう。この楽譜自体は所有者の物で数万円の価値となるが、その内容はpublic domainである。この内容は(何らかの代価のもとに)公開されなければ、所有者は世界中から非難されようし、モーツァルトにも済まない。と言うわけで、古典文献の電子資料化にご支援を頂きたい次第である。

新収和古書抄

—平成八年—

百万塔陀羅尼

史籍類で製作年時を確認し得る点で、現存最古の印刷物。天平宝字八年(七六四)に發願、宝龜元年(七七〇)四月二十六日にこれを完成し、法隆寺など十大寺に分置されたものという。

「無垢浄光経自心印陀羅尼」一

巻。木製小塔一基。版種、短。料紙寸法、四十三×五・六榎(但し裏打ち補修)。左右の版(文字面)長、三十一・二榎。

和漢朗詠集注 写一冊

紺色後補表紙。八一丁。鎌倉初期頃成立と推定される南都の釈永濟による「和漢朗詠集注」の、室町末期と覚しき写本。上巻のみの零本で、冒頭に「背燭共燐深夜月」(春夜)「倚松樹摩腰」(子日)注を補った一紙に統けて、「人無更少時須惜」(暮春)より仏名部までの朗詠漢詩句と漢字仮名交じりの句注を記す。「満久」(巻末)「高須」(遊紙「原裏表紙」)の署名あり。漢詩句には、片仮名訓・送り仮名が付される他、朱点によるラコト点も全句にわたり施される。書

写・所蔵伝来は不明だが、旧蔵者による鉛筆書による校異も、ま

記されている。本系統の注釈書伝本は、永青文庫本・高田本・京大本・龍谷大学本が知られるのみだが、これまで知られた伝本とは異なる用字・表現上の差異が認められることと、漢詩句のラコト点等が存する点で貴重な資料と言える。(なお、北村季吟「和漢朗詠集注」は本系統の注をもとに改変を加え、さらに和歌注を補ったものである。)

天台名目類聚抄 版本十三冊

天台宗全書二十二巻に収められる貞舜の七帖見聞の版本。本書には成菩提院蔵自筆本その他の写本系の伝本と、元和四年延暦寺宝幢院に於て印摺した古活版系の刊本とがある。新収本は古活版に拠った整版で、寛永五年中野市右衛門の刊記がある。この他に慶安四年版が知られる。

墨田川扇合 写一冊

一八・一×二二・〇榎。薄茶色横刷毛引表紙。包背装、結び綴。題簽剥落の跡に「墨田河扇あはせ」

と打付書。山吹色の九行刷野紙を使用。巻首に「月の屋」の朱文長方印を捺し、帙に貼られた森銃三の題簽に「横山由清旧蔵／一部手写」とある。幕末期弘化、嘉永頃の書写。内容は「墨田川扇合」「源氏物語竟宴和歌」「源平盛衰記人名和歌」「太平記人名和歌」。小ぶりながら三島自寛、賀茂季麿、井上文雄ら江戸の歌人の好資料である。

外国人研究員

当館では外国人研究員として、お二人の客員教授を迎えている。

フランシヌ・エライユ教授は、

当館と学術交流の協定を結んでいるコレージュ・ド・フランスよりお迎えしたフランス国立高等研究院の教授で、専門は平安朝の歴史と文学。「御堂関白記」の仏語訳で著名である。昨秋、勲四等宝冠賞の叙勲を受けられた。当館では「本朝麗藻」の共同研究などに邁進され、本年三月末帰国の予定。

エスペランサ・ラミレス・クリス・テンセン教授は、ミシガン大学准教授、専門は連歌で、とくに心敬の研究を中心に、当館で八月末まで研究をつづけられる。

新収資料紹介④

宗安小歌集

中世歌謡、特に室町小歌の最重要資料の一つである『宗安小歌集』がこの度当館の所蔵に帰した。本書は『国語と国文学』昭和六年四月号に、笹野堅氏によって「室町時代小歌集」の名で初めて紹介され、間もなく同年九月萬葉閣刊『室町時代小歌集』に、コロタイプ版による影印に活字翻刻を付して全文が公にされた。しかし原本はいづれか所在不明となり、専門の研究者も直接披見することができないまま、数十年が過ぎたのである。然る所、平成五年十二月の一誠堂書店九十周年記念古典籍善本展「即売会」に突如姿を現し、注視を集めたことは記憶に新しい。今般縁あって当館に架蔵されることになったが、長く消息を失っていた幻の本に、今後は容易に接し得るようになったことをまずは慶びたいと思ふ。

改めて書誌の概略を記せば、卷子本一軸、桑茶色地の金襴表紙、見返しは金箔を押す。料紙は鳥の子紙を二枚貼り合わせたもので、紙背には全面に金銀の切箔と金沙子を撒く。全十九紙。紙高10mm、紙幅45mm前後。ただし第一紙と第十九紙はやや短い。僅少の虫損および損傷はあるが、概して保存は良好である。このほかに

「二卷子卓撰代は久我大納言敦通卿正筆 後二号有庵三休」の極めを記した100×66mm程の紙片と、久我敦通と宗安に関する簡単なメモを記した紙片が付属している。

内容については既に周知に属するが、冒頭に「千早振神代は」に始まる序が二十六行あり、次いで「神そしるらん我中は千世萬よとちきり候」（数字は古典集成本の歌番号）以下約三百十首の小歌を列記し、末尾に「右一卷宗安老対予請／此序不願後覽之嗚／醉狂之余為与騎竹年／戲任筆書之耳千恥一笑々々／久我有庵三休（花押）」の奥書を付す。終りから八首目の23「よしやつらかれ…」以下の筆致がそれ以前と微妙に異なっているが、全体を一筆と見てよいようである。宗安については序に簡明な紹介があり、小歌に長じていた宗安が自編の小歌集を久我有庵三休に示し、序を乞うたものと知られる。編者宗安には、従来何人かの具体的人物が擬せられているが、いずれも定説化するに至っていない。一方序の作者久我有庵三休については、上記の紙片にもある久我敦通（寛永元年十一月六十歳没）とする説と、その叔父日勝（天正十五年六月四十六歳没）を当てる説があり、前者が比較的有力視されているようである。

ところで、この本は上述のように全体が有庵三休筆と認められるが、奥書の「為与騎竹年・書之」という文言を信すれば、或る小童に贈る目的で染筆したものと考えられる。所収の小歌が必ずしも一般の年少者にふさわしいとは言いがたいことからは、或いは愛童に与えたとも想像されようか。ただし「為与騎竹年」が何らかの意図に基づく架空の言辭とすれば（「醉狂之余」「戲」と共に、清華家出身者が低俗な小歌集に序を草し、更に浄書まで行ったことに対する言い抜けと取るのは穿ち過ぎか）、やはり宗安に送った本と解することも不可能ではない。いずれにせよ本文資料としての価値に大差はないかも知れないが、この本の性格は、筆者有庵三休の素性や書写の年代・場所と併せて、改めて検討されてよいと思われる。

なお笹野氏は何故か触れておられないが、この本には一度書いた文字を擦り消して訂正した箇所が散見する（十首に計十一箇所、字数にして二十一文字）。多くは直後の訂正らしく、書いている途中で気付いたことが明瞭な例もある。連綿も極めて巧妙に繋げており、書き直しの跡を自立たせないよう配慮されている。これによれば、「醉狂之余」に「任筆書之」という奥書の文言の虚構は明らかである。中には12「糸よりほそいこしむれば（うりや）」いと、なをいとし、12「君こそもとれとり。（うきみ）」にとかなや」のように、訂正前の字が判読・推読できる場合もあるのは興味深い。全体に比較すれば僅かであり、一部に不注意の誤記も含まれるとしても、これらの訂正は、59・93の誤記などと共に筆者が必ずしも本書所収のすべての小歌に通曉していたわけではないことを示唆しており、必然的にこの本の本文の信頼性にも波及するであろう。

また今後期待される点として、この本の墨継ぎの分析が一首の解釈に寄与する可能性を挙げられる。もつとも墨継ぎ箇所が歌意の切れ目と無関係な場合もある上、右に述べた筆者の理解度の問題もあるので、絶対的な根拠にはできないが、或る程度の参考にはなるう。

上述したように、この本は『宗安小歌集』の真の意味での「原本」ではないかも知れないが、然らずとしてもそれに極めて近い貴重な写本であることは確かである。長期の退蔵を経て再び世に現れたこの本が、広く活用されることを期待したい。

（文献資料部 落合博志）

パリで読んだ『六百番歌合』

松野陽一

ベルナール・フランク博士が昨年十月に逝去された。前号に述べたように、その二月に当館との学術協定に調印され、平成九年度には来館の御意志があっただけに歎きは深い。

「この窓の下に中世のパリの土居が少し残っています。その線を延長するとこの机の上を通ることになります。つまり私は『洛中』、皆さんは『洛外』にいることになります……」。日本からの古典研究の来客には時折使われたらしい冗句で迎えて下さった温顔にはもう接することはできない。コレージ

第四回国際日本文学研究会
(一九八〇年)に参加された
時のベルナール・フランク氏



ユ・ド・フランスの五階の端、ぐるりの半円形を窓で囲まれた日本学高等研究所の所長室の主のいな機の前に立ったのは逝去の半月後のことであった。

協定に基づく講義は評議員のビジョー先生と主任司書の松崎碩子氏の周到な配慮で、各週二〇分、四回滞りなく行うことができた。聴講者は大学教授と院生など一四人。感動したのは毎回、リール、ボルドー、グルノーブルの各大学の先生方が皆出席して下さったことで、これは、東京の授業に仙台、新潟、京都から新幹線でかけつけてくれるようなものであるから、張り切らざるを得ない。テーマは『六百番歌合』、平安朝和歌の題詠史に位置づけて論じた。講義内容は両国語で印刷物にされる計画があるので、一般の評価はその結果を俟ちたい。

講義の間を縫って、もう一つの目的、フランス国内の日本古典籍資料の共同研究、所在調査・収集にも従事した。

ギメ美術館の新出資料、公任の『金玉集』、定家の『二四代集抄出』等については同館の尾本学芸員の紹介、グルノーブル大のヴェイヤール講師の翻刻、研究の成果が近く活字にされるが、事前に本文検討の機会を持たせて貰った。

調査では従来文献資料部が入っていない所では、東洋言語文化研究所 (INALCO、パリ10大学) の本部図書館に通った。前身の東洋言語学校が明治期に収集した和本・活字本が七〇〇点程あるのを書庫で確認、古活字本の吾妻鏡が眼についた。文献資料部の調査対象にするための内話を学長、図書館長にいただいたので、間もなく利用が可能となる。その他では、リヨン市印刷銀行博物館の嵯峨本伊勢物語(三村竹清旧蔵)が印象に残った。

講義が半ばまで進んだころ、マルセイユ在住のクライトマン Keiichi Yamada 氏の訪問を受けた。九二歳の高齢を感じさせない元気な語り口で、明治九、十の両年、軍事顧問団の一員として日本に滞在した祖父君の収集した書籍、文物について熱く語られた。中ではコピーを持参された『猷英楼画叢』四

帖に驚かされた。当館に一括寄託されている田安家本の分れの、テーマ別雑録だったからである。東京国立博物館に連れの二三帖があることも判明した。田安家の収集能力の高さ、挿絵等の表現力の豊かさから、今後注目される資料となる。精査の許可をいただいている。

余暇の古書店・骨董屋めぐりでは八十点程の和本を見た。絵入版本が大半で状態の悪いものが多かったが、値頃感から、浮世草子『傾城千尋の底』、祐信絵本『絵本答話鑑』『絵本言葉の種』、絵本『鳥羽絵欠どめ』など八点を購入した。

右は協定に沿った内容に限っての報告である。正直なところ講義にはせめて二倍ぐらいの時間が欲しかったけれど、お互い業務の時間を融通しての交流ではこの辺が限度でもあろう。最後まで厳しい緊張感を持続させつつも好意に充ちた接遇で私をのせて下さった方々に謝意を表したい。

(企画調整室)



よみがえる宗安小歌集

— 中世歌謡の世界 —

戦前に『室町時代小歌集』として影印・翻刻されて以来、中世歌謡史の基本資料として知られる孤本『宗安小歌集』は、戦後、その原本が行方不明となった。昨年度、当館では六十五年ぶりにその所在を確認し、購入することができた。

久々の公開とあって、今年度の春期特別展示・公開講演会は「よみがえる宗安小歌集」と銘打ち、中世歌謡の諸相を探ることにした。講演会は、五月十六日（金）、午後一時三十分より当館一階の大会議室にて開催（申込不要、入場無料）。講師の先生三名には、田植草子、琉歌、そして宗安小歌集など

についてご研究の一端をご披露いただく（広島文教女子大学・友久武文教授、琉球大学・池宮正治教授、獨協大学・飯島一彦助教授）。

当館二階の展示室では、新収『宗安小歌集』をはじめ、中世から近世期の歌謡原典三千数点を陳列する（五月十二日（月）～二十三日（金））但し十七・八日は閉館。なお、十六日午前十時三十分より当館の落合博志助教授が展示解説を行う。室町の音色に、多くの方々が魅了されることを心より願う次第である。

（整理閲覧部参考室）

第二十回国際日本文学研究集会

昨年十一月七日・八日に第二十回国際日本文学研究集会が開催された。パリ第七大教授のジャックリーヌ・ピジョー氏の招待発表「谷崎潤一郎『少将滋幹の母』にあらわれる平安時代のイメージ」をはじめとする九件の研究発表が行われた。

公開講演は平岡敏夫群馬県立女子大学長の「王朝の（夕暮れ）—芥川龍之介「羅生門」を視点として—」、フランシーヌ・エライユ当館客員教授の「平安時代貴族社会における作文」。

熱のこもった発表と、興味深い講演が続き、盛会であった。

文庫紹介(25)

大倉精神文化研究所

東急東横線大倉山駅から急峻な坂道を登りつめた所に、大倉精神文化研究所がある。昭和四年創立者大倉邦彦の名を冠して設置された研究所は、五八〇〇〇点の蔵書を誇るが、宗教書が主で分量もかなりの比重を占める。国文学関係の和書は、昭和九年頃購入した榊原家本を中心に二四〇点を蔵し、それらは江戸期の写本が多いが、中に稀本の『人家和歌集』（当館紀要第七号に福田秀一氏が紹介）なども含まれる。

など大部のものも目立つ。

現在では研究所の建物は横浜市に寄附され、典籍のみ研究所の所有となっているので、建物を無償で提供する理由づけのために、書籍は横浜市に寄託し、市に寄託したものを更に研究所に委託するという、複雑な経緯を踏まえている。市の意向では将来は一般公開を原則としたい由で、そのために目録作りが必要となるが、漢籍中心の服部文庫（服部富三郎旧蔵書）については、斯道文庫から助力の申入れがあると聞く。

目下は月曜・火曜のみが閲覧日で、土・日曜、祝日は休館であるが、場合によっては水曜日も閲覧可能であるという。所在地・電話番号は次のとおり。

国文学研究資料館では、研究所の近隣に居住する武井和人・川島絹江夫妻の多大の御尽力を得て、和書のみ抄出目録作成と、それに基づいた書誌調査を終え、平成三年七月に、ひとまず撮影可能な国文学関係と古書九九点（二九三一九コマ）を収集した。写本には、御堂関白記・後二条関白記・猪隈関白記・岡屋関白記・後深心院関白記などの公家日記や壬二集・山家集・長秋詠草・秋篠月清集等の家集があり、版本には、絵本大閤記（七二冊）・類題和歌集（三三冊）・羅山先生文集（四九冊）

〒222横浜市港北区大尾町七〇六
〇四五・五四四・一八八一
（文献資料部 新藤協三）



科学研究費補助金(国際学術研究)を終えて

国文学データベースの学術情報網 による国際共同利用に関する研究

研究情報部 安 永 尚 志

本研究は一九九四年度から三ヶ年
に渡って実施した。研究の目的は、
国文学研究資料館に蓄積する各種の
国文学データベースを、学術情報ネ
ットワークを用いて、欧米の日本研
究者に提供するための諸問題の調査
研究と、実際に接続実験を通してそ
の実現性を確認しようとするもので
ある。以下簡単に経緯を振り返る。

(1) 第1年度

コペンハーゲンで開かれた欧州日
本学研究会(EAIS)の協力を得
て、海外における日本語の処理シ
ステムやデータベースの実状および
問題を調査し、まとめた。Oxford大
学計算機センターの協力を得て、用
意した日本語処理システムを実装
し、各カレッジから直接国文学研究
資料館へアクセスする技術を確認し
た。また、斬本大系CD-ROMを
動作させることに成功した。とりわ
け、フランス国立図書館が進める電
子化計画や世界的にも新しい電子出
版物の納本制度について調査研究
し、大きな知見を得た。イタリアで

は日本研究者約三〇名から成る学大会
があり、これを母体とし、Venezia
大学に拠点を置く合意が得られた。
なお、正版本歌集二十一代集を素
材として、回国のコンピュータ上で
動作確認を行った。

米国、カナダにおけるテキスト処
理技術と実態の調査研究を行った。
SGM(国際標準電子化テキスト記
述言語)テキストに対するOptaText
システムの日本語への対応性を検証
した。CEFH(人文学電子化テキ
ストセンター)との共同研究の合意
を得た。

(2) 第2年度

人文学とコンピュータ国際会議
(ALLCACH-95)の協力を得
て、とくに国文学研究者の実態を調
査し、海外の国文学研究者総覧作成
の準備を開始した。

国文学データベースへの直接接続
実験を、オーストラリア(国立大学
他)、英国(Oxford、Cambridge大学
他)、仏国(College de France)、
伊国(Venezia大学他)で実施し、

成功した。情報ネットワークの実状
と将来動向を調査した結果、趨勢は
インターネットに移行しつつあつ
た。日本語処理システム環境が各国
毎に異なり、国文学研究資料館にお
いて事前準備を充分に行う必要があ
つた。

CD-ROMによる国文学データ
ベースの利用環境の整備を行い(オ
ランダ、ドイツ)、またテキストア
ーカイブの実態とその利用方法を、
とくに進んでいる英国において調査
研究し、日本語テキストへの適用性
を探り、成果を得た。

招へい研究者を交えてシンポジウ
ム「コンピュータ国文学」を開き、
研究成果の評価を行い、次年度への
課題を含めまとめた。

(3) 第3年度

チェコ、ポーランド、ハンガリー
において、日本研究者の実態、日本
語の情報システムやデータベースの
実態、要求事項などを調査した。イ
ンターネットなどの整備が進めば、
直接国文学データベースへのアクセ
スが可能となり、教育、研究の活
化が進むため、期待が寄せられた。

米国を中心に大学など研究図書館
のデジタル化が活発で、これらの実
状の調査研究を項目に加えた。また、
CD-ROMによるマルチメディア

型国文学データベースを、米国(U
CLA、Princeton大学他)で、実証
実験を行い、ビュアシステムなどに
高い評価を得た。一方、欧米では情
報処理用漢字は日本・中国・韓国
(CJK)をひとまとめで扱ってい
るため、問題が大きい。そこで、中
国について同じ漢字文化圏における
共通の関心事である国際標準文字セ
ットの技術動向、国家的対応方法な
どを調査研究し、意見交換を行った。

総合的な取りまとめを、欧米の拠
点とした英国(Oxford大学)、仏国
(College de France)、伊国
(Venezia大学)、米国(Princeton大学)
で行い、実用化の見通しを得た。国
際会議ALLCACH-96(ノルウ
エー)において、研究成果の発表を
行った。高い関心が寄せられ、早期
の実用化が強く期待された。また、
CEFH、College de Franceから
2人の専門家を招き、「人文学と
コンピュータ」シンポジウムを実施
し、これまでの評価を行った。

研究成果の公開の一つとして、要
望の高いインターネット上でのWW
Wサーバを立ち上げ、国文学研究資
料館のホームページを開設し、目録
およびテキストデータベースなどの
試験公開を行った。現在、最終的な
研究成果報告書を作成している。

シンポジウム「人文科学とコンピュータ」について

研究情報部 安永尚志

第二回シンポジウム「コンピュータ国文学」は、科学研究費補助金による重点領域研究「人文科学とコンピュータ」の研究計画班「テキスト処理」との共同で、次のように開催した。

日時 一九九六年十月一七日(木) 十八日(金)
名称 シンポジウム「人文科学とコンピュータ」

場所 機械振興会館(東京)
二日間に渡り、また会場を国文学研究資料館から離れて実施したが、延べ一五〇名の参加を得た。

今回のシンポジウムは、テキスト処理を中心のテーマとして、国文学データベースの様々な問題にふれた。また、科学研究費重点領域研究の最新の研究成果を発表し、評価を行い、テキスト処理研究の進展に寄与した。

この重点領域研究の特色は、人文科学全般に渡った公募研究を重視している。今年度はテキスト処理計画研究班のもとに、一三の公募研究班が組織されている。そこ

で、計画研究班を含め、一四の研究発表と質疑を行った。

また、四つの講演を行い、現在の問題点や研究課題の整理を行い、かつ国際的な研究動向についての理解を深めた。以下にそのプログラムの一部を掲げるが、とりわけテキスト処理の世界的な権威ホッケー・スーザン教授(プリンストン大学、CETH所長、並びにドウラエ・ユベール教授(コレーージュ・ド・フランス)を招いての講演および質疑については、多大の成果を得ることができた。

基調講演 フランスにおける日本学研究的現状
ドウラエ・ユベール
(コレーージュ・ド・フランス)

特別講演 人文科学とコンピュータ
ホッケイ・スーザン
(CETH: Center for Electronic Texts in the Humanities)
講演1 展示図録のデータベース化について

山崎誠

研究発表 科学研究費重点領域研究

講演2 古辞書研究と「漢字池田証寿(信州大学)」

「人文科学とコンピュータ」テキスト処理研究
安永尚志
(国文学研究資料館)

他、二三件。

なお、この他にパネル討論「文学と語学におけるコンピュータを利用した研究」が行われている。

現在研究発表論文の全テキストは、インターネットWWWサーバ上の国文学研究資料館ホームページで試験公開されている。ただし、一部の図表は除く。

URL: <http://www.nijl.ac.jp>

また、シンポジウム予稿集も発行している。未だ、若干残部があるのでご連絡いただければお送りします。

『古典講演シリーズ』の刊行

当館では年間二、三回の公開講演を行ってきた。これをもとにして、新たに「古典講演シリーズ」の刊行が開始された。

第一冊目は「万葉集の諸問題」と題し、本年一月刊行された。

平成六年の「広瀬本万葉集」の発見を機とし、当館では万葉集とその周辺をテーマとして、昨年までに三回の講演会を開催、八人の先生方を迎えて講演をお願いした。本書はこれらの講演が、一書となつて結実したものである。

内容は左のとおり。

○広瀬本万葉集について(木下正俊)

○広瀬本万葉集あれこれ(神堀忍)

○春日昌預とその時代(飯田文弥)

○甲斐近世の歌人たち(吉田英也)

○人麿の信仰と影供(佐々木孝浩)

○歌語から見た万葉集相聞(森朝男)

○都市と万葉集(古橋信孝)

○東歌を読む(佐佐木幸綱)

定価二、八八四円で市販されている。(問い合わせは、臨川書店)

TEL 075-721-1111

平成9年度共同研究

うつほ物語の基礎的研究

室城秀之 (白百合女子大学教授)

上原作和 (跡見学園女子大学講師)

大井田晴彦 (東京大学大学院)

佐藤信一 (白百合女子大学講師)

正道寺康子 (新潟大学大学院)

中山陽子 (恵泉女子短期大学講師)

宮谷聡美 (早稲田大学大学院)

江戸英雄 (国文学研究資料館助手)

近世上方読本年表作成のための基礎研究

服部 仁 (同朋大学教授)

近衛典子 (昭和学院短期大学助教授)

福田安典 (甲子園短期大学講師)

山本 卓 (関西大学助教授)

岡 雅彦 (国文学研究資料館助教授)

「先代御便覧」(宮内庁書陵部蔵)の研究

和田道子 (中京大学教授)

赤松万里 (鳴門教育大学助教授)

大石房子 (放送大学講師)

坂内泰子 (実践女子大学講師)

山田直子 (国文学研究資料館助手)

平安鎌倉時代の「詩題」に関する

基礎的研究

渡辺秀夫 (信州大学教授)

本間洋一 (同志社女子大学教授)

三木雅博 (梅花女子大学助教授)

柳澤良一 (金沢学院大学教授)

山崎 誠 (国文学研究資料館助教授)

「冥報記」をめぐる比較文学的研究と漢文訓読文献の電子化の研究

馬淵和夫 (東京成徳短期大学教授)

青柳隆志 (東京成徳短期大学助教授)

稲垣泰一 (筑波大学教授)

稲葉二柄 (大妻女子大学教授)

黒田佳世 (中京大学講師)

滋野雅民 (山形大学教授)

田口和夫 (文教大学教授)

中野 猛 (都留文科大学教授)

渡邊信和 (同朋大学保健科学研究科)

相田 満 (国文学研究資料館助手)

平成8年度共同研究 追加

日本文学の特質―「本朝麗藻」の研究

フランシーヌ・エライユ

(国文学研究資料館職員助教授)

本間洋一 (同志社女子大学教授)

柳澤良一 (金沢学院大学教授)

相田 満 (国文学研究資料館助手)

新藤協三 (国文学研究資料館助教授)

武井協三 (国文学研究資料館助教授)

辻本裕成 (国文学研究資料館助手)

中村康夫 (国文学研究資料館助教授)

山崎 誠 (国文学研究資料館助教授)

夏季大学院セミナー受講生募集

当館では、国文学と日本史学を専攻する大学院生(修士課程・博士課程)を対象として、毎夏「原典講読セミナー」を開催している。

当館所蔵資料を中心に、原典を資料とし、五、六名の当館教官が講義する。日程はまだ決定されていないが、今年も八月下旬に開講の予定である。募集人員は約一〇名、応募者が多数の場合は、当館で選考する。受講料は無料(講義資料実費徴集)。

このセミナーは平成五年より開催されており、今夏は五回目となる。国文学・日本史学を専攻する若い研究者にとって、所属大学以外の教官の講義を聴講できる希有な機会として、好評を得てきている。また、他大学の院生との学問的交流の場ともなっている。

研究の視野の拡大と、深化をはかる貴重な機会として、ふるって応募していただきたい。

セミナーについての照会先は、国文学研究資料館庶務課共同利用係

り(03・3785・7131内線210)。

講義の内容については、従来より当館教官が、もつとも研究をふかめているテーマについて行われている。高度で密度の濃いものとの評価を受けており、「セミナー原典を読む」シリーズとして、平凡社より順次刊行されている。

参考までに昨年度の講義題目と担当者をおげると、「本居宣長の和旅行―菅笠日記を読む」鈴木淳助教授、「平安末期の私撰和歌集―言葉と歌集を読む」松野陽一教授、「日本漢籍史入門―長恨歌の注釈と絵画化をめぐって」山崎誠助教授、「大名屋敷の歌舞伎上演 弘前藩日記を読む」武井協三助教授、「デジタル・ワード―国文学研究のためのコンピュータ・リテラシー」原正一郎助教授、「夜明け前」の世界大黒屋日記を読む」高木俊輔教授。

本年度の担当者は未決定であるが、岡雅彦教授(近世文学)、落合博志助教授(中世文学)、丸山勝巳教授(情報処理学)、ロバート・キヤンベル助教授(近世文学)、山田哲好助教授(史料管理学)が候補としてあがっている。

彙報

委員会日誌
平成8年

- 9月17日 原本テキストデータ
ベース委員会(第二回)
- 9月19日 企画委員会
- 11月7日 国際日本文学研究集会委員会(第二回)
- 11月7日 国文学文献資料調査員中国・四国地区会議
- 11月7日 国文学文献資料調査員中部地区会議
- 12月3日 外部評価委員会(第四回)
- 12月17日 国際日本文学研究集会委員会(第二回)
- 12月19日 共同研究委員会(第二回)
- 1月21日 大学院教育協力委員会(第一回)
- 1月30日 共同研究委員会(第三回)
- 1月31日 原本テキストデータベース委員会(第三回)
- 2月6日 国文学文献資料収集

企画委員会(第二回)

2月14日 企画委員会

3月3日 古典籍総合目録委員会

会

3月7日 情報システム委員会

運営協議委員会の開催について

本年度第二回運営協議委員会が、平成八年九月二日(月)に開催され、議事は、国文学研究資料館長候補者の推薦、管理運営の概況について協議が行われた。

本年度第三回運営協議委員会が平成八年十月四日(金)に開催され、議事は、国文学研究資料館長候補者の選定について協議が行われた。

本年度第四回運営協議委員会が平成八年十二月二十日(金)に開催され、議事は、教官人事について協議が行われた。

本年度第五回運営協議委員会が平成九年二月十八日(火)に開催され、議事は、管理運営の概況、平成九年度予算内示及び科学研究費補助金、平成九年度事業計画について協議が行われた。

本年度第二回評議員会が平成八年十月三十日(水)に開催され、

議事は、国文学研究資料館長の選考について評議が行われた。

本年度第三回評議員会が平成九年二月二十七日(木)に開催され、議事は、管理運営の概況、平成九年度予算内示及び科学研究費補助金、平成九年度事業計画について評議がおこなわれた。

本年度第二回評議員会が平成八年十月三十日(水)に開催され、

る研究

期 間 平成8年10月4日、平成8年10月15日

鈴江 英一

山田 哲好

青木 睦

渡航先 連合王国

目的 在英日本史料の所在と現状に関する調査

期 間 平成8年10月27日、平成8年11月10日

安永 尚志

中村 康夫

渡航先 チェコ共和国、ポーランド共和国

目的 在英日本史料の所在と現状に関する調査

期 間 平成8年10月2日、平成8年10月22日

安藤 正人

渡航先 連合王国

目的 在英日本史料の所在と現状に関する調査

期 間 平成8年9月22日、平成8年10月6日

松村 雄一

武井 協三

渡航先 連合王国、ドイツ連邦共和国

目的 国文学データベースの学術情報網による国際共同研究、東欧諸国におけるコンピュータ環境の実態調査及び研究打合せ、接続実験

期 間 平成8年10月26日、平成8年11月9日

松野 陽一

渡航先 フランス共和国

目的 国文学データベースの学術情報網による国際共同研究に関する調査

期 間 平成8年10月2日、平成8年10月22日

渡航先 連合王国

目的 在英日本史料の所在と現状に関する調査

期 間 平成8年10月2日、平成8年10月22日

渡航先 連合王国

目的

コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所における講義及び国文学資料の書誌的調査

期間 平成8年11月16日～平成8年12月13日

武井 協三

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学データベースの学術情報網による国際共同利用に関する研究

期間 平成8年12月8日～平成8年12月14日

原 正一郎

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学データベースの学術情報網による国際共同利用に関する研究

期間 平成8年12月8日～平成8年12月19日

新藤 協三

鈴木 淳

ロバート

キャンベル

辻本 裕成

渡航先

ドイツ連邦共和国
イタリア共和国

目的

パチカン司教団 欧州における日本古典籍研究の歴史的研究所

期間 平成9年1月24日～平成9年2月8日

原 正一郎

相田 満

渡航先

中華人民共和国 国文学データベースの学術情報網による国際共同利用に関する研究

期間 平成9年2月27日～平成9年3月8日

安永 尚志

渡航先

連合王国 フランス共和国 チェコ共和国 イタリア共和国 国文学データベースの学術情報網による国際共同利用に関する研究

目的 国文学データベースの学術情報網による国際共同利用に関する研究のとりまとめ

期間 平成9年3月12日～平成9年3月29日

武井 協三

渡航先

アメリカ合衆国 国文学データベース

目的

学術情報網による国際共同利用に関する研究

期間 平成9年3月12日～平成9年3月20日

原 正一郎

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学データベースの学術情報網による国際共同利用に関する研究

期間 平成9年3月12日～平成9年3月23日

丑木 幸男

山田 哲好

安藤 正人

福田 千鶴

渡航先

連合王国 在英日本史料の所在と現状に関する調査

期間 平成9年3月12日～平成9年3月22日

海外研修旅行

安藤 正人

渡航先 マレーシア

目的 第二次世界大戦時及び戦後の記録史料の取扱いに関する史料の調査及び収集並び

期間 平成8年12月9日～平成8年12月29日

に研究打合せ

人事異動 (平成8年9月～平成9年2月)

○平成8年10月1日付け

(併任)

出原 隆俊(文献資料部助教)

(大阪大学文学部助教)

(平成8年10月1日～平成9年3月31日)

○平成8年10月1日付け

(平成8年10月～平成9年3月)

○平成8年10月1日付け

フランシヌ・エライユ(客員教授)

授

フランス国立高等研究員教授

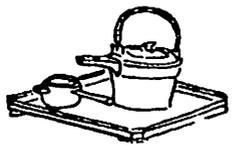
(平成9年1月～平成9年8月)

○平成9年1月1日付け

エスペランサ・ラミレス・クリス

テンセン(客員教授)

ミシガン大学准教授



利用者へのお知らせ

◆「資料利用カード」の有効期限について

従来、「資料利用カード」に有効期限を設けず使用してきましたが、このたび、システムを見直し、登録した日から三年後の年度末を期限とし、平成九年四月より実施することになりました。これは、利用者の最新情報を入力し、利用者サービスに役立てるためです。現在の「資料利用カード」は平成九年三月末で無効となります。したがって、従来から利用されている方々には大変お手数をおかけしますが、改めて登録申請手続きをお願いします。その際には、身分証明書を御持参下さい。

◆「マイクログ資料目録縮刷版」の市販について

【国文学研究資料館蔵マイクログ資料目録】は、発行部数に限りがあり、一部の機関にしか配布できないのが現状です。そこで、縮刷版を別途刊行し市販しています。第一九冊目の一九九五年版が、三月に発行されました。(笠間書院刊、定価六、五〇〇円)

◆「古典講演シリーズ」刊行のお知らせ

従来、夏期公開講演会の記録として「国文学研究資料館講演集」1〜15を刊行してきましたが、今後は、春、秋も含めて主題ごとに編集し、「古典講演シリーズ」として発行することになりました。

その第一冊目が、「万葉集の諸問題」(平成九年二月、臨川書店刊、定価二、八八四円)です。これは、平成六年春期公開講演会、平成八年夏期公開講演会及び秋期公開講演会の講演記録をまとめたものです。

◆平成九年度春期特別展示・公開講演会のご案内

「よみがえる宗安小歌集——中世歌謡の世界——」というテーマで特別展示及び公開講演会を開催します。

〔展示〕
六十五年ぶりに発見された室町小歌の白眉「宗安小歌集」をはじめ、中世から近世歌謡の原典を数十点選び展示します。

期間 五月十二日(月)〜二十三日(金)ただし、十七日(土)・十八日(日)は休室

閲覧時間 九時〜十七時

会場 二階展示室

資料請求受付時間 九時半〜十二時、十三時〜十六時半

展示解説 五月十六日(金) 十時半〜十一時十五分

文献複写受付時間 九時半〜十五時半

〔講演会〕 日時 五月十六日(金) 十三時半〜十六時半

休室日 日曜日、土曜日、祝日、振替休日、毎月末日(日)、土の場合は直前の金曜日)、四月末〜五月上旬五日間、十二月二十七日〜一月五日(ただし、平成九年度は十二月二十六日から)、三月二十五日〜三月三十一日、その他

会場 一階大会議室

来館でない場合の利用方法 所属大学の図書館等を通して申し込めば文献複写及び貸出(資料は限定されます)ができます。また、個人が郵送で文献複写の申し込みをすることができます。詳細は参考普及係にお問い合わせください。

演題 「田植草紙歌謡の性格」 友久武文

「琉球大学法文学部教授 池宮正治

「琉歌の世界」

「宗安小歌集実見」 飯島一彦

「宗安小歌集実見」

「宗安小歌集実見」

「宗安小歌集実見」

「宗安小歌集実見」

◆利用案内

利用資格 学術研究のために当館の資料を必要とし、かつ、次のいづれかに該当する者

- (一) 学校の教員及び調査研究機関の研究員
- (二) 大学及び大学院の学生
- (三) その他館長が適当と認める者



平成9年度

春季学会

①事務局 ②学会開催日 ③会場

解釈学会

①〒170豊島区北大塚3-29-2 教育出版センター内 03-5394-1203
②8月21日 ③国文学研究資料館
歌舞伎学会①〒169-50新宿区西早稲田1-6-1
早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②5月25日 ③共立講堂

副点語学会

①〒155世田谷区代沢1-20-10 ②5月23日 ③大阪市立大学

芸能史研究会

①〒602京都市上京区河原町通荒神口下る上生州町221キトウビル303号 075-251-2371 ②6月8日
③京大会館

国語学会

①〒113文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内03-3812-2111 ①事務取扱 〒113文京区本郷1-13-7 日吉ハイツ404 03-5802-0615 ②5月24・25日 ③大阪国際交流センター・大阪市立大学

古事記学会

①〒150渋谷区東4-10-28 國學院大學文学部日本文学第1研究室内03-5466-0215 ②6月21・22日 ③学習院大学

上代文学会

①〒180武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 成蹊大学文学部遠藤宏研究室内0422-37-3647 ②5月17～19日 ③

立命館大学

説話文学会

①〒970いわき市中央台飯野5-5-1
いわき明星大学田嶋研究室 0246-29-7197 ②6月28～30日 いわき明星大学

全国大学国語教育学会

①〒739東広島市鏡山1-1-2 広島大学教育学部国語教育学研究室内0824-24-6790 ②8月4・5日 ③筑波大学附属小学校

全国大学国語国文学会

①〒101千代田区猿楽町2-2-6 畑山第1ビル(株)おうふう気付03-3294-0857 ②6月7・8日 ③早稲田大学

中古文学会

①〒112文京区白山5-28-20 東洋大学文学部国文学研究室03-3945-7367 ②5月10・11日 ③東洋大学

中世文学会

①〒175-80板橋区高島平1-9-1 大東文化大学文学部日本文学科関口研究室03-3935-1113内3127 ②5月30～6月1日 ③専修大学

日本演劇学会

①〒169-50新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②5月30～6月1日 ③成城大学

日本音声学会

①〒101千代田区猿楽町1-3-1 03-3292-1718 ②9月28・29日 ③東京都立大学

日本歌謡学会

①〒150渋谷区東4-10-28 國學院大學文学部日本文学第七研究室内03-5466-0221 ②6月14・15日 ③上野学園大学

日本近世文学会

①〒191野市大阪上4-1-1 実践女子大学文学部国文学科研究室内0425-85-0316 ②6月14～16日 ③秋田経済法科大学

日本口承文芸学会

①〒150渋谷区東4-10-28 國學院大學文学部伝承文学研究室内03-5466-0224 ②6月7・8日 ③常葉学園短期大学

日本国語教育学会

①〒112文京区大塚3-29-1 日本教育研究連合会第三研究室内 03-3941-3420 ②8月2・3日 ③国立教育会館虎の門ホール・筑波大学附属小・中学校

社団法人 日本語教育学会

①〒107港区赤坂1-8-10 第9興和ビル内03-3584-4872～3 ②5月24・25日 ③慶応大学

日本社会文学会

①〒603京都市北区小山上総町大谷大学文学部片岡了研究室 075-432-3131

日本比較文学会

①〒411静岡県三島市文教町2日本大学国際関係学部内秋山正幸研究室 0559-86-5500 ②6月14・15日 ③山形大学

日本文学協会

①〒170豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②7月6日 ③京都教育大学

日本文学風土学会

①〒359所沢市泉町1789 秋草学園短期大学国文科研究室 0429-25-1111 ②6月21・22日 ③専修大学

日本文芸研究会

①〒980仙台市青葉区川内東北大学文学部国文学研究室内 022-217-5957 ②6月14・15日 ③東北大学

日本方言研究会

①〒192-03八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内 日本方言研究会幹事 0426-77-2135 ①〒115北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事 03-3900-3111 ②5月23日 ③大阪市立大学

表現学会

①〒168杉並区永福1-9-1 明治大学和泉校舎佐藤(嗣)研究室内 03-5300-1121内1311 ②6月7・8日 ③奈良教育大学

仏教文学会

①〒600京都市下京区七条大宮龍谷大学文学部大取一馬研究室内075-343-3311 ②6月7～9日 ③龍谷大学

萬葉学会

①〒558大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学文学部国語国文学研究室内06-605-2413・2414 ②10月5～8日 ③東京大学

美夫君志会

①〒466名古屋市昭和区八事本町101-2 中京大学文学部国文学研究室内 052-832-2151 ②7月19・20日 ③中京大学

国文学研究資料館報 第四十八号
平成九年三月発行
編集・発行者
国文学研究資料館
東京都品川区豊町一、一六、一〇
郵便番号一四一
電話(三七八五)七一一一
FAX(三七八五)七〇五一
印刷 有限会社スミタ